

様式第 2 号（第 9 条関係）

会議録

会議の名称		令和 6 年度第 1 回ふじみ野市地域自立支援協議会			
開催日時		令和 6 年 5 月 1 7 日（金） 開会時刻 午後 2 時 閉会時刻 午後 4 時			
開催場所		大井総合福祉センター 4 階 多目的ホール			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		副会長	柳川 道子	委員	小林 郁子
		委員	佐藤 麻由美	委員	加藤 千春
		委員	小菅 友美	委員	野原 眞二
		委員	河田 智美	委員	藤川 友子
		委員	福應 渉	委員	村上 秀貴
		委員	岩長 泰志		
		委員	田中 壽子		
会議の議題		(1) 日中サービス支援型共同生活援助の利用状況について (2) 医療的ケア児が適切な支援を受けられるための関係機関の協議の場の報告について (3) 部会報告			
会議の公開又は非公開の別		公開			
会議の非公開の理由					
傍聴人の数		0 人			
会議の内容		別紙のとおり			
会議資料		別添のとおり			
事務局		福祉部障がい福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和 6 年 5 月 2 9 日			
	記名押印 又は署名	役職名 副会長 柳川 道子 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。			

会議の内容

(1) 日中サービス支援型共同生活援助の利用状況について 非公開

(2) 医療的ケア児が適切な支援を受けられるための関係機関の協議の場の報告について 〈概要説明〉（事務局）

2月21日に開催したこども部会の中で、医療的ケア児が適切な支援を受けられるための関係機関の協議の場を設けた。医師、埼玉県医療的ケア児等支援センター、訪問看護事業所看護師を招き、地域センターかけはしの紹介、児童発育・発達支援センター及び障がい福祉課の事業内容について、医療的ケア児や児童支援に関する意見交換を行った。

地域センターかけはしの紹介の中で、医療的ケア児の問題、相談等は、地域によって差があること、大都市でも医療的ケア児の協議の場がなく、支援が進まない現状が報告された。

医療的ケア児や児童支援に関する意見交換では、医療的ケア児の学校の受入れ態勢が整っていないこと、18歳を過ぎると居場所がなく医療に繋がらないこと、協議の場を増やすことが挙げられた

〈質問事項等〉

○医療的ケア児をお預かりできる整備が要求されるが、放課後等デイサービスを含め、整備が整っている施設がない。具体的に何が足りていないのか、何が必要なのか、1つ1つ協議の場で確認していく必要がある。

○医療的ケア児を預かるにはお金がかかる。昨年度は、ふじみ野市から補助金1人あたり30万円ほどいただいたが、今年度から1事業者に1回と制限がかかることになった。

医療的ケア児に対しての補助金なのに事業者単位なのはおかしい。医療的ケア児単位で補助ができるよう見直して欲しい。

⇒昨年度に障がい福祉課から埼玉県に要望したが、今年度も要望する。（事務局）

○医療的ケア支援事業（市）を18歳以上も利用できるよう見直して欲しい。

(3) 部会報告

〈概要説明〉（各部会長）

○相談部会：5月13日に相談事業所連絡会を開催した。実際に相談を受けている方の意見を聞き、ケース検討会議も行った。引き続き相談事業所連絡会を行いたい。

○就労支援部会：5月14日に市内の就労系の事業所ネットワーク会議を開催した。就労支援の市内の事業所の紹介を発信について検討した。また、昨年度所沢と富士見の特別支援学校の進路担当の先生と意見交換会を実施したが、引き続き今年度も実施したい。

○こども部会：(2)の報告のとおり

○権利擁護部会：5月14日に部会を開催し、市職員向けに作成している障がいのある方への配慮マニュアルの見直し、令和6年度の権利擁護報告会の取組について検討した。様々な意見が出たので、事務局に精査いただき、次の部会で報告いただく予定となっている。

○精神部会：3月18日に部会を開催し、精神保健勉強会の報告、その下部組織であるコア会議の報告、部会及びコア会議の今後の方針等について検討した。市内の事業所向けに勉強会を年3回行ったが、どの事業所にも精神障がい者の方がいることから、もっと多くの事業所が参加できるように、また、事業所からも意見を聞けるような勉強会の運営の検討が必要ではないかと意見が出た。